
冬 雪あかりの路 < 1 >

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬 雪あかりの路<1>

【コード】

NO418U

【作者名】

RAN

【あらすじ】

毎年恒例の小樽の雪あかりの路。

その祭りの中にとけこむ日常を描く。

サイト、dノベ転載。

仕事から帰ってきたら、妙に人が多かった。

ふと駅の外を見ると、かまくらの中にキャンドルが灯されていた。

そういえば、今日は雪あかりの路をやってたんだっただな。

駅周辺はもちろん、帰り道の家や店にも雪や氷で作られた入れ物の中に、キャンドルが入り、チラチラと温かい光を放っていた。

会場ではない民家でも、便乗してキャンドルを置く所があるのだ。

明るい町から離れ、だんだんと自宅に近づいてくると、街灯もだんだんと心もとなくなる。

いつもは少し寂しい通りであるのだが、今日だけは違った。

通りのあちこちに明かりがともされ、いつもより明るかった。

その明かりは、私を「おかえり」と迎えてくれているようで、何だか嬉しくなった。

こんな気持ちになったのは、久しぶりだ。

いつも家に帰り、電気をつけても誰もいない寂しさも、今日は和らぐような気がした。

伊藤整の雪明かりは、青白く寂しい印象を受けるが、私を迎えてくれる明かりは、温かい橙色の雪明かりだ。

(後書き)

雪あかりの路 北海道小樽市で行われる冬の祭り。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0418u/>

冬 雪あかりの路 < 1 >

2011年6月15日14時56分発行